

新型コロナの感染状況もなかなか落ち着く気配はなく、国内においても感染制御についてはいまだ予断を許さぬ状況です。しかしながら、国際的にはウィズコロナが浸透し、現在開催されているカタールでのワールドカップサッカーを視聴しても現地での熱狂興奮が伝わっており、コロナはもう大丈夫？と思わせるほどの盛り上がりを見せています。国際学会においても徐々に現地開催が再開されており、Web開催ではなんとなく物足りなかったイベントも臨場感、醍醐味を伴い復活しつつあります。あらためて対面でお互いの吐息を感じながらの意思疎通がいかに重要であるかを実感いたします。2022年10月に第2回 Annual SMISS-Asia/Pacific Meeting が小谷善久会長のもと大阪で開催されました。渡航制限が大幅に解除されたこともあり、一部の地域を除きアジア各国から予想を上回る多数の先生が来日され、久しぶりに国内での活気ある国際学会に参加いたしました。この会では側方進入腰椎椎体間固定 XLIF を開発されたブラジルの Pimenta 先生も来日され、XLIF に関する開発の経緯や普及までの苦労話を講演でうかがいました。この手技の発表当初は、かなりのバッシングがあったようですが、信念をもって対応し、腰椎固定術における低侵襲手術および変形矯正の概念を変えたといっても過言ではありません。現在では腹臥位での XLIF についても解剖学的な裏づけのもと臨床での実践例が積み重なっているようです。

さて、今回の特集は後方アプローチによる腰椎椎体間固定の話題です。総合病院ではない当施設でも前側方の特殊な合併症を懸念し、腰椎固定術はできるだけ後方から行っており、企画者の筑田先生がご指摘されるように、PLIF・TLIF は市中病院でも行われる標準的な腰椎固定術といえます。しかしながら、一般的な術式とはいえ、後方アプローチからの損益を理解し、さらに侵襲性を低減すること、完成度を高めることは簡単ではなく、常に工夫と改善が要求されます。本特集でのエキスパートの視点や意見はこれらの術式における安全性や効率性を向上させ、いっそうの高みを目指すために参考になります。前方アプローチを含め、椎体間固定の選択肢は広がったものの、いかなる進入法であっても基本的な理念を遵守し、腰椎のアライメントや骨癒合達成の促進に気を配ることは大切です。本特集は後方アプローチによる腰椎椎体間固定を極めるために大変有用な一冊となっております。

(高橋敏行)

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

萬年 徹 高橋 昭 金田清志
小山素麿 小柳知彦 田代邦雄
国分正一 服部孝道

編集委員

山崎正志 (編集委員長)
金 彪 (副編集委員長)
亀山 隆 園生雅弘 高橋敏行
谷 論 筑田博隆 永島英樹
中村雅也 根尾昌志 原 政人
飛驒一利 堀 正明 松山幸弘

Vol. 35 No. 7
(2022 年 12 月 23 日発行)

毎月 1 回 25 日発行

1 部定価 (本体 2,500 円 + 税)

(配送料別)

年ごめ予約購読料 33,300 円 + 税

送料弊社負担

発行/株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷 6-17-9

本郷網ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>

(担当: 山岸)

印刷所/三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所/

(株)文栄社

TEL 03-3814-8541

(株)ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.
6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2022,
Printed in Japan

JCOPY 出版者著作権管理機構 委託出版物

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。